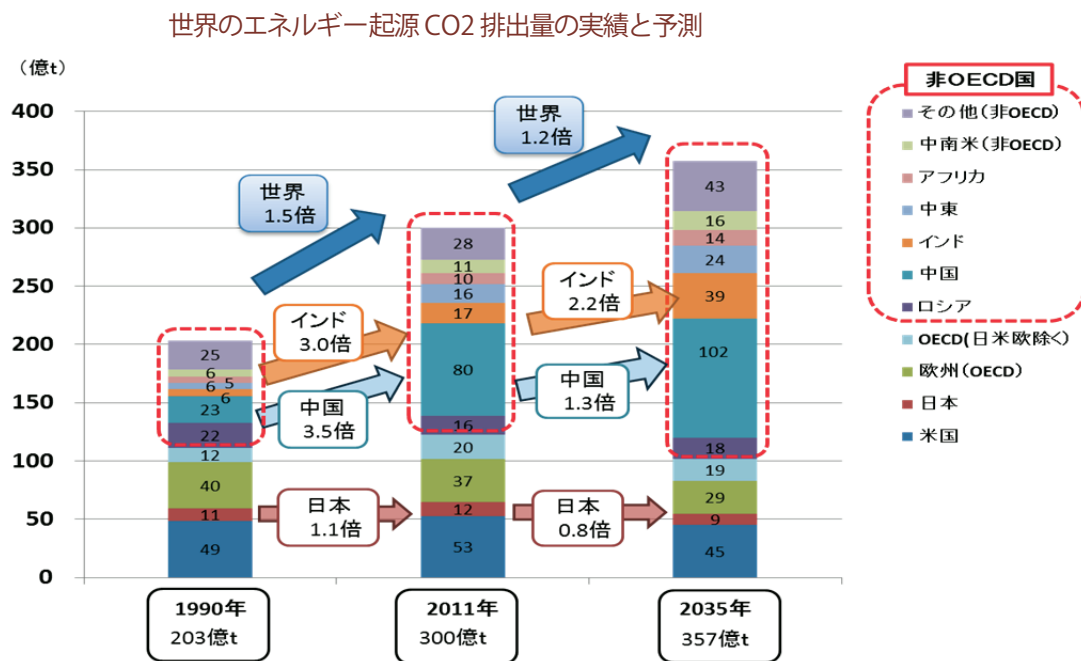


# エネルギー白書から シリーズ「我が国が抱える構造的問題」

## 10 世界のエネルギー起源CO2排出量の実績と予測



温室効果ガスについてみると、京都議定書の基準年の1990年には世界全体のエネルギー起源二酸化炭素排出量は203億トンでしたが、2011年には300億トン（約1.5倍）に増加しました。この間、中国、インドにおいては、それぞれ3.5倍、3.0倍に二酸化炭素排出量が増加しています。これは、上述のとおり、新興国において、エネルギー需要の増加が顕著であることが背景にあると考えられます。今後も新興国を中心とするエネルギー需要の増加により、世界全体のエネルギー起源二酸化炭素排出量は増えていく傾向にあると推測されます。

この点、国際エネルギー機関（IEA）の予測によれば、世界全体のエネルギー起源二酸化炭素の排出量は、2011年の300億トンから2035年には357億トンへと増加（約1.2倍）すると予測されています。非OECD加盟国についてみると、2011年の178億トンから2035年には256億トンへと増加（約1.4倍）すると予測され、この期間においてインド、中国はそれぞれ22億トンずつ増加（インド：約2.2倍、中国：約1.3倍）する見通しです。

> 参考HP:日本のエネルギー事情のいま、をお伝えします [http://www.fepc.or.jp/theme/now\\_energy/japan\\_energy\\_01.html](http://www.fepc.or.jp/theme/now_energy/japan_energy_01.html)

出典：資源エネルギー庁「平成25年度エネルギーに関する年次報告」(エネルギー白書)